

QFT-Plus フォンティフェロン(TB IFN γ)

結果の解釈

Nil値 (IU/mL)	TB1値 (IU/mL)	TB2値 (IU/mL)	Mitogen値 (IU/mL)	結果	解釈
8.00以下	0.35以上かつ Nil値の25%以上	不問	不問	陽性	結核感染を疑う
	不問	0.35以上かつ Nil値の25%以上			
	0.35未満、あるいは0.35以上かつ Nil値の25%未満		0.50以上	陰性	結核感染していない
8.00を超える	不問	不問	0.50未満	判定不可	結核感染の有無について判定できない
			不問		

《報告対象項目》

- ・フォンティフェロン TB IFN γ : 判定結果 (陰性、陽性、判定不可能)
- ・TB1値 = (TB1実測値) - (Nil値) (IU/mL)
- ・TB2値 = (TB2実測値) - (Nil値) (IU/mL)
- ・Mitogen値 = (Mitogen実測値) - (Nil値) (IU/mL)
- ・Nil値 (IU/mL)

(注) TB1値、TB2値、Mitogen値については Nil値を減じた検査結果です。

《項目の意義》

- ・TB1値 : 結核菌特異抗原の感作を受け、分泌された IFN- γ 量 (主に CD4 T細胞の応答を検出)
- ・TB2値 : 結核菌特異抗原の感作を受け、分泌された IFN- γ 量 (主に CD4及び CD8 T細胞の応答を検出)
- ・Mitogen値: 非特異物質 (PHA) による Tリンパ球の免疫応答性を確認 (陽性対照)
- ・Nil値 : 被検者の血中 IFN- γ 量 (陰性対照)

【判定上の注意】 (試薬添付書)

- 本検査の結果が陰性の場合であっても、潜在性結核感染あるいは結核の可能性を否定するものではない。感染の段階 (例えば細胞性免疫応答が進展する前に得られた検体)、合併症により免疫機能に影響を受けている状態、血液検体の不適切な取り扱い、操作の間違いにより、偽陰性を示すことがある。
- 本検査の結果が陰性であっても、結核感染の可能性を示す臨床所見、病歴及び結核発症リスクに関して考慮しなければならない。特に免疫機能が損なわれた被検者には注意が必要である。
- 本検査の結果が陽性であっても、被検者の病歴、臨床所見に基づいて、総合的に判断すること。不適切な試験操作により、偽陽性を示すことがある。
- 本検査の結果が陽性の場合であっても、塗抹検査や培養検査、胸部 X線検査等により活動性結核の診断を行うこと。
- EST-6 及び CFP-10 は、すべての BCG 株とほとんどの非結核性抗酸菌に存在しないが、M.kansasii、M.szulgai、M.marinum には EST-6、CFP-10 の存在が知られているため、これらの感染によっても、本検査結果が陽性となることがある。結核菌と非結核性抗酸菌との鑑別をするためには、分離培養法、PCR 法等により、菌の同定を行うこと。
- 測定された IFN- γ 値の大きさは、感染の段階や程度、免疫応答の度合いあるいは活動性への進展の可能性と相関させることは出来ない。
- 以下に示すような疾患や治療をうけている患者検体は、本検査結果判定に注意すること。
 - ・ HIV感染、AIDS、臓器移植等により免疫抑制されている者
 - ・ 糖尿病、ケイ肺症、慢性腎不全、血液病 (白血病、リンパ腫等)
 - ・ その他特定の悪性腫瘍 (頭部癌、頸部癌、肺癌等) 等により免疫系低下の可能性のある症例
 - ・ 免疫抑制剤 (コルチコステロイド、メトトレキサート、アザチオプリン、化学療法等) 等により免疫抑制されている者
- 本検査から得られた結果は、被検者の病歴、現在の臨床所見及び他の検査結果と併せて判断しなければならない。